

参加したテーマ	1) あなたが気になっている具体的な話題は？なぜ、そう思っているのか？	2) どんな状態になったらいい？そのために、できそうなことは？
山・川・里山・農林業	山・川・里山・農林業。スギ・ヒノキの人工林のうち、生産に適さない場所の手入れをどうするか。森林環境贈与税の使い道を個人レベル、事業体レベル、町、森林組合、みんなで共有しましょう。	
	山・川・農（里山）。里山の維持は神山だけでなく日本全体（特に都市部）の問題。水、食料自給率…。ここが変われば仕事（農業）も教育も解決しやすくなると思う。	人々の価値の転換が必要だと思う。そうしないと上流側に維持に必要なお金が集まらない。 できること ①自然の手入れは長期的な取り組み→価値を理解している人材の育成（教育への投資） ②神山だけでなく周辺自治体と広域で考える必要があると思う→自治体担当者レベルのシンポジウムとか？ ・水源周りを重点的に切る ・山の調査（↑データに基づいた政策） ・テクノロジーの利用 ・森林環境税を利用して木を切る
	水の質、水の量、山が健康か？なぜ大変なのは農家だけなのか？神山町だけの問題なのか？子供達は林業や農業に関わる機会が確保され続けるのか？未来のために町がしている 気候変動や美しい地球のために具体的にしていることは何か？	水源を保つ森に生える木の種類（針葉・広葉）の割合を神山のスタンダードに揚げ、それを実行するためのプロジェクトチームを、町や県、その他の自治体と進めるために、里山のシンポジウムを開催し、各自治体が当事者意識を持って話せるような環境をつくる。
	水が減り藻が増えている川、それを引き起こしている人工林の問題（光が入らない、根が浅い、単一）	間伐が進むこと。しかしチェーンソーで木を切る人は増えない（危険・大変）ので、簡単に実施できる方法（皮むき間伐）を普及。皮は畑のマルチに。立ち枯れた木は建材や薪に。 「もう管理ができない」とあきらめた山林を預かって、住民参加型で管理していく。共有林・トラスト的な取り組み。
	手を入れられるフィールド（山・川）を増やす→四季を感じない山。川に入りにくいボーボーの草むら。草むらと化した元田んぼが神山のイメージになって欲しくないから。	①地権者が生きているうちに、気楽に土地に入れる許可を出す。※地権者は、土地が必ずきれいになるわけではないと理解する（期待しすぎない）役場や学校の人（権力者）は、地権者と連絡をとる。 ②有志の学生が、目的・意義を持って活動する。のびのびと！ ③野草や動物を料理するなど、有志・学生以外の一般の人にも、うけの良い体験を提供し、外部から町に人・金を集める
	神山の自然を、どう維持・発展させていくのか。今の暮らし方では、この延長線上での未来しかなく、そこにどんな要素を加えると変わっていくのか、そんな全体感を持っています。	人々が暮らしの中で、自然、周りの環境にかかわりながら、現代の里山の景色をつくっていきけるのではないかと→周りの環境や、今まで守ってきたことが生かされ、未来に生きるものを「まちの提言、憲章」的なものにまとめる。とくしま生物多様性戦略の自治体宣言として「生物多様性神山宣言」をつくる準備委員会をつくる。
	木の問題、農林業を主に考えたい。山が荒れてる。農林業→給料が少ない。前回のつなプロや林業アカデミー、講座？で聞いて興味を持った。	イベント開催（山を知る、木を切る、次の世代へ伝える）。森（今の状況）を知る。木を切る。高校との連携。木の良い活用（アスレチック）。次の世代に教える。

	山の手入れ（川）荒れている。安全に山に入れない。 安全に山に入れて、川・山で遊び、山・川を好きな世代を育てたい。森を知るイベント。ブッシュクラフト。沢のぼり。城西高校とのパートナーシップ。キャンプ（防災キャンプ）。山・川で遊び
	自然と川に惹かれて神山に来たが、暮らしているうちに少し残念な部分が見えてきたから。 整体や生物の多様性のある程度高く保ちたい。猟師になる。ライフスタイルの中に自然とのつながりが多いモデルを確立する。
	農業（畑）をやるハードルが高い。食害（鹿）対策などの初期費用・維持費用がかかる。 やっている人、やり始めようとする人への補助。森林→川の水量
	「神山の将来像」という時、神山の農業をどうするのか。具体的ビジョンは？これまでのつなプロでは、神山で農業をやりたい人を支援する仕組み・取り組みがあり、確かに後継者も育っている。しかし、圧倒的に弱いのは、既存の農家である。高齢化もあり危機的状況にある。既存の農家と、神山で農業をやりたい人をどうつなぐかが大きな課題。 ・5年先、10年先の農家、農業就業人口はどうか？どれくらいを描く？ ・実際の農業の把握（工作面積、作付、5～10年先の見通し…） ・農業をやりたい人と既存の農家をつなぐための組織づくり ・空き家だけでなく、空き家と農地療法を引き継ぐためには、何が壁で、何を克服する必要があるの？
	川→濁り、水量低下、活気なし、河原の葦が多すぎる 山→暗い、木が細い、切る人いない、切り出しても金にならない 農林業→担い手がない、辞める人が多い、山の場合、境界が分からない。 道沿いの木を切る→運び出すのにそこまで費用かからない。 境界を調べ、もしくは町が一括購入して新たに決め、今欲しい・管理していきたい人に売る。 農家を辞める→町？に申請→そこでマッチングさせ、新たにやりたい人に受け継いでいく
交流・継承・文化活動	・お遍路さんが休憩する場所、また交流できる機会について ・暑い夏や寒い冬にお遍路さんがコンビニやかたやまの外で休憩しているのをたくさん見てきて、今から厳しい山登りがスタートするので、一息つけるスペースを作ってあげたいと思ったから。 ・おせっかい文化の再生 ・外国のお遍路さんとお話ししていた時に、神山町のことをすごく褒めていて、もっと何かしてあげたい！話を聞きたいと思ったからです。
	・場所がないので、お遍路さんが通る場所でスペースをつくりたい。またそこで交流もできたらいい→こういった活動をしたいということを言ってもら ☆仲間づくり→ニコライメール・・・？ ・ちょっとした飲み物食べ物を提供したい
	地元に戻っても帰りたいと思えば、それがフリーのつだ屋。映画が見れたり、本があったりと楽しく交流できる場。この町の歴史も知れたり、キッチンもつけて、自由に料理できたらいい。好きなことができる。面白いアート（作品）を飾って楽しく。 知らない人でも軽く話せる地域になってほしい。地元に戻っても帰りたいと思ってもらえる場所になったらいいな。気楽に入れる場所が欲しい。そのために、小さなイベントでも参加する。
	多世代交流、10代の居場所と学び、域外の人・企業が町の人とつながるきっかけ、町の人が夜ふらっと寄れる飲み場の場、外国人と交流できる ニーズあり。 バンビを発展させて実現できるのでは！？町との連携を一緒に考えたいです。
	交流の場が必要だと考えている。大人はコンプレックス、子どもは鮎喰川コモンがあるのに、特に中高生には交流の場がない。中高生がお互いに、また町の人と交流することで、町の一員として町に愛着を持ち、自分のこととして街での活動を進めていくことができるようになると思う。道の駅とつたやの合わせだったような場所。 誰でもいつでも来れる場所をつくりたい。そこに本もあり、学びを交換できるWSや勉強できる場所もあり、観光や視察で訪れた人も過ごせる場をつくりたい。そのために今場所をつくるための協力者を少しずつ見つけている。

町の文化の継承。①例えば、薬草や茶の文化は、年齢が高い方が伝えてくれそう。移住者がそれを伝えていきたい。これは神山の文化コンテンツであり、他にもいろいろな文化もコンテンツが眠っているのではないか。②町のお接待文化（お遍路etc）を広げることで町の魅力を伝えられると良い。	上記内容をきちんと形にして運営できる仕組みがあると良いと思います。そのためには町の人が集える場所があると良いと思います。→パンビの拡大版のようなイメージ。 町の文化・観光をコンテンツ化し、町外の人にも伝えられるようにできれば良いと思います
神山の多様な人（知識豊富な高齢者、ビジネスマン、起業家、外国人、教育や農林業関係者など）と出会えて、接することができる仕組みづくり →価値観・世界観を広げることで、新たな自分の可能性を見つける（特に若い世代に）	交流できる場所と、人と人をつなげるワンストップ窓口の設置。地域のキーパーソンのネットワーク化
色々な人が気軽に集える場所があるといいと思った。自分は昨年神山に引っ越してきたが、お互いに声をかけられる関係が欲しいと思ったから。	場所、つなぐ人、お金
町の文化・歴史の継承・アーカイブ。5年後に残らない可能性のある先人の技術、声を映像で記録する等。最新の神山情報も合わせて掲示。温故知新が大切と感ずるため。	神山の今、昔の情報を包括的に知ることのできる場づくり（アーカイブしていただける機能→生成AIでQ&A機能？）神山情報掲示板（まとめサイト）づくり。イン神山へ歴史・文化記事投稿する。
文化芸術に触れる機会がない。クラシック音楽	定期的にしろ不定期にしろ演奏を聴く機会がある。すでにいくつか企画して実現もしてますし、今年もあと2回あります。一人でやってるので仲間がほしいです。3人のグループで話して「かみやま音楽祭」を来年やりたいという話になりました。
音楽をやる場や町内でどんな人がいるのかわからない。音楽や文化が身近にある町にする。	来年5月に神山音楽祭を行う目標。そのために音楽をやっている人を探す。事務局的な場と人を作る。実際に一人からでも行動、ライブをやっていく。
神山の歴史に関するもの、神仏に関して本当の慣わしを間違った型で伝わっており、塗り替えられたものを本当のことを伝えていく。祭りが小規模になってしまっていて人が来るようにしたい。神山に賑わいを取りもどす。	昔からの神山の歴史や文化を外の人に、世界に発信していくようになったらいい。できそうなことは、配信と動画投稿。
交流できる場がない、コロナ以降なくなったを多くの方が感じていた。交流の場があれば、いろんなことのきっかけが生まれる可能性もある。広報の取材で、高齢者の方から担い手不足（伝統行事・農業・・・）などの現状を聞いて、感じるがあった	多世代が気軽に交流できる場が各地区にあったらいい
移住者と地元の方との交流。高専と地元の方との交流	ホストファミリー制度。高専生などを任意で地域のご家庭にアサインして、月に1回くらい共に過ごす（作業を手伝うなどでも）。やはり地元の人の家に入り、個人的なつながりを作ることが大切だし、高専の子へのメンタルサポートにもつながるのではないかな。（実際に私の留学先の高校で行っていたことです）
移住者と町の人交流できる場が少ない。大埜地住宅内では交流の機会があるが、同じ町内の町民の方とはほぼ接点がない。	・新しく町に移住した方に昔あったバスツアー復活！ ・地区スポーツ大会や神山ウォークをいろんな地区で実施。言語や年齢の壁がない ・みんなの食堂を始めているので、活動範囲を広げたいと思いました。職を通すと、交流・文化継承も深まりやすいと思うので。 ・町の歴史、地形、地理などもまとめたサイトがあるというアイデアが出ました

	「神山らしさ、神山にしかない、神山で続いている」そもそもこれを知りたい。神山のあたり前は他の場所ではあたり前ではない。神山は多分普通の町、他の自治体も同じ。違うのは人とその人たちの考え方・捉え方。例えば、薬草協会の活動。今は地元の高齢者と移住者。地元の方達のお子さんは継承していない→神山らしさが途絶える	地元の高齢者のお子さんとの協力や共同って思ったけど、強制されるものではないから、途切れさせないために少なくとも自分たちは続けていくこと、あと自分の今までの経験・経歴を使って、その活動を発信する。
	神山のこと（暮らし、食、農）もっと知りたいけど、地元の人と深く関わる機会あんまりない…。自分から関わりに行くのもあまりできてない。今日みたいな場でもそもそもあんまりない。	場所。どちらかが踏み込むのはハードルが高いけど、交わるポイントで出会う場があれば。お互いに行くイメージ。そもそも今日みたいな場が地元の人にはアウェイ感があるのかもしれない・・・と思った。春田さんの話を聞いて、ただの「場」って確かになくて、神山だからこそ、広がりが面白そうだなと思った。
	町内で文化活動を充実させる（音楽、美術、手工芸etc.）	・町内でコンサート（クラシック、ジャズetc.）が開催され、気軽に生の音楽に触れることができる ・何人かで例えば手工芸を習ったり絵を描いたりなどのサークルができるとよい
	集落の人口が減り、地域でできること（やってきたこと）ができなくなってきた。この先10年でさらに加速するでしょう。50代60代にもしわ寄せがきている。悔しいけど辞めることも選択肢の一つに入れておかないといけない。	答えがない。人口が多ければ解決するものでもない。でもこうやって集まって、他の人と話さず中でヒントに出くわすかもしれない。また、少し始めてみることで、課題がより明確になるかもしれない。前向きに考えられる場として、今回の会議は良かったと思う。
	10代の若い世代が学校外で地域と交流する機会がないので、若者が地域と交流できる場ができれば、10代が活躍できる機会が増えて良い。学校や高専で学んだことを地域に発表でき、交流できるフラットな場。	
仕事と観光	獣害被害が広がり、困っている地域のみなさんの声を聞き、主人が猟師の免許をとり、現在、駆除班として猟をしています。その上で、収入面（仕事として）が安定していないため、若い世代は本業にするのは難しい状況です。獣害対策として、猟師の技術の向上、猟のための機材・道具の費用の援助、収入源の確保などの必要性を感じています。	獣害対策 ↓ 猟師育成プログラム（猟の技術・道具費用の援助） ↓ 猟師の収入源の確保 ↓ 解体施設の開設→併設でカフェ ↓ ジビエ料理の拡大→ジビエ料理体験 ↓ 学校給食（県の補助あり）、食育（こども食堂など）、飲食店・宿泊施設と連携（観光）
	・神山を別荘地にしていいのか（東京等に仕事がある人が神山に別拠点を作るのは地方創生と言えるのか） ・神山で仕事をつくる、その土壌を育む、インフラを整える。そのための活動として何をすべきか。仕事を生み出す意欲のある人が増えていけば、町の可能性は無限に広がるはず。	起業のアイデアはある。起業への想いはある。が、知識・経験がない、勇気がないという人が、起業って意外とハードル低いかも、と考えるようになって、気軽に起業する人が次々と生まれてくる状態。STARTUP BASEというイベントをやっているが、それを発展させていきたい（2日間で起業体験をする）

	神山で事業を興そうとしている。 ・小麦やお米をカフェや社員食堂へ。町内に人を讀んだ仕事になるか？ ・観光・レンタカー→市内から神山へ来る人。町内に車両を設置。アクティにいてい。	神山で雇用したい。収益の確保。加工施設など。 持続可能な事業へ。出口戦略あり。 農業と加工・農業と観光・農業とカフェ
	移住者自身が自立して立っていけるような協力、支援の方法はないか？（仕事について）独立して自分で立って	スタートアップしてみる。小さな起業や副業を支援。安心できる相談・伴走体制。移住後1～3年を「定着期」と見て、生活・仕事・人間関係の相談をいつでも受けられる窓口をつくる。
	神山が目的地になるってどういう状態？住むと良さを感じられる（天気・四季・朝晩）と思っているけど、短い滞在者は何を求めているのか？滞在する場所、目的地となる場所をつくりたいと考えている。ゲストハウスをつくる予定です。	訪れる人がどんな目的で来ているのかをデータ化する。
	高専生、神山校生として外から神山に来て、神山を好きになってくれることは多いんじゃないかな？と思う一方で、卒業後の仕事がないので、結局町を離れていくしかないのではないかと残念に思っています。	神山で学んだ子どもが神山で働く、生活する状態。そのために、神山で新しく事業を起こす（雇用を生み出す）ことがメリットのあるものにできたらよいのかなと思います。（人脈？補助？）※具体案までは考えることができませんでした。
	現在高校1年生で城西高校神山校に町外（徳島市内など）から通っている人は、高校を卒業した後、就職しようと思っている人が多いと聞いています。神山校は農業高校ですが、農業や林業だけでなく、町内に多様な仕事があり、高校生が興味を持てることをより多く見つけられたらいいと思います。 桜が咲く時期や阿波踊りの時期はそれを見に来る人が多くいるけれど、そうでない時期は観光目的の人が少なく、宿泊の場が機能していない。	宿泊施設を利用する人が一年中いるように、神山に年中楽しめる観光スポットを作る。仕事を増やすために。起業をしたいと思っている人向けに、神山町内での困り事や「こんなサービスやこんな場所がほしい」というような町民からの意見が集まる場を作る。町内でのニーズをわかりやすくして、起業する場合の参考にしてもらう。
	観光の活性化。町内各施設の連携。小さい町だからこそ顧客のシェアが必要。観光の拠点となるところ←自身の取り組み。	観光のコンソーシアム（DMO）組成。観光案内所としてしっかり存在する（頑張る）
	起業の経験があるから、そのテーマを選んだ	東京のようにOne Stop Business Centerがあったら助かる。イン神山のウェブサイト会社にサービスを見つけるためのアップがあったらいい。
	神山町内の観光コンテンツについて、共通理解が必要であり、町内でデータ管理・シェアすることで、次の施策を見つける手がかりとなる。どんな人・性別・年齢・目的・地域など、細かな情報がある程度、町内で共有。そこから課題やのびしろの発見に繋げていく。仕事の創出も可能性がある。（ツアーガイド、運転手、期間限定のお遍路宿スタッフ）	神山DMOのような団体ができればいい。ホテルコンソーシアムや神山観光コンソーシアムなど。
子育て・学び	神山の子どもたちの学びについて→未来の神山を支えるのは子どもたちだから	主体性と当事者性を持った子どもを育てたい。自分の生き方と自分の生きる社会について考えられるキャリア教育を充実させること→そのためには神山で暮らす人と触れ合う機会を意識的・計画的・継続的につくっていく必要があります

	「学びの機会」…時間やお金、交通手段であきらめるチャレンジが少しあり、どうしても車がないと生活しづらい 「出会いの機会」…神山ではいろんな大人に出会える機会（大人としゃべり場、孫の手PJなど）がすごく多いので、それが続いてほしい 「集まる機会」…コモンのような「みんなでフラッと集まれる場」が広野にもあったらいいな。自分が小学生のときに、まさにほしかった場所がコモンだったの。	話していく中でやはり「問いを立てる力」や「正解のない問いに向き合う力」がこれからは必要になっていくのだなと。またそのためには「多様な”自分らしく生きている大人”と出会うこと」が大切だという意見もあり、まさにそうだなと思いました。自分の好きなことを、1つの型にはまらないいろんなやり方で仕事にしたり取り組んだりしている大人たちに出会うことで、学ぶ世代の選択肢も増え、より神山に可能性を感じ、帰って来たいと思える場になるのではないかなと思いました。皆さんの意見や考えを、いろんな立場の方から聞けて、すごく良い時間になりました。今回もありがとうございました。
	保～小・中と地域の中で丁寧に育ってきた子どもたちが、高校以降は町外に出る人がほとんどで、町の良さがもっと良く理解できる多感な時期に町と関わりが少なくなっている。このことがUターン者が増えないこと、祭り、山の手入れなどの継承が難しくなっている原因。	神中出身・神山出身 山の暮らしを楽しむ・つなぐ大同窓会キャンプ2days 対象：神山出身の高校生～20代（30代も？） 内容：神山で自分らしく生きる多様な大人と対話しながら、同窓生・先輩後輩とも語り合いながら、「生きる・暮らす」を考える／神山の今をキャッチアップする。山暮らしの「技」を先達から教えてもらう。
住まい	住宅の供給、未活用地の活性化。	誰でも住まいを手に入れられるようにしたい。サ高住もつくりたい。
	町内で住宅を求めている人が多いが、数が足りないの、町外で借りている人が多いから	官民が協力しながら空き家バンクの充実や宅地の開発、更地になっている宅地の有効活用ができれば良い
	高齢者の住まい、生活の場の課題、大きな家、病院もしくは老人ホーム2つの選択肢の間がないこと	福祉のスマートシティとスキマのない介護サービス
医療と福祉	妊産婦医療、終末期医療、小児医療、将来の歯科医不在の可能性	医療が身近なものになること、敷居が低くなること、マイナス一歳からの子育て支援
	病気や障害があっても、安心して住み続けられる町にする、というのを前提に、死ぬまでやり続けたいことや、その人の生きがいを実現できる町になるといいな。	いつでも協力できる住民同士のつながりがある。医療のハードルが低くアクセスしやすい。なんでも相談できる場所がある。
支え合う地域	みんな神山の神山らしさ、アイデンティティを守る。自然の戦い・共生、山・里・川、自然資本。	その歴史を知れば勝手にいいことが始まる。つなプロの中で「山川大学」をつくる。高校・高専に続いて、勝手に、みんなで学べる大学をつくる！
	将来、被災・復興を経験すると思う。いつか必ず来る災害に対し、住民主体のネットワークが必要。	物々交換や手間がえ、先達の技の伝承など、できるネットワーク・コミュニティをつくれるといいな
	「神山」というまちづくり・地域づくりを住民主体で。テーマは「防災」「自然」。ここが共有できれば、住まい、仕事、教育、アート、すべてのことに。	芋煮会、自然体験など、楽しいことを通じて、防災に備えて住民のつながりづくり